

平成 26 年度 第 1 回豊橋市男女共同参画審議会 議事録

日 時	平成 26 年 6 月 27 日（金） 午後 1 時 30 分～2 時 45 分
場 所	豊橋市役所 西館 4 階 災害対策本部室（東側）
出席者	別紙のとおり
欠席者	伊藤 友之、高倉 宣夫
傍聴者	なし

（進行：木之下会長）

1 開会

会 長 本日は半数以上の委員が出席しているので、会議は成立している。今回の議事録の署名については、鈴木委員と戸崎委員にお願いしたい。

2 議題

(1) 平成 25 年度事業実施報告について

※資料に基づき事務局が説明

委 員 25 年度実施報告の中に女性団体の研修派遣実績が掲載されていないが、平成 26 年度は国立女性教育会館の研修への派遣を予定しているか。

事務局 25 年度は例年どおり実施し、2 名を派遣した。本年度も同様に国立女性教育会館主催の研修に 2 名を派遣する予定である。

委 員 セミナー参加者の定員割れが続いているが、何か対策を考えているか。

事務局 今年度はセミナーの内容に応じて既存のネットワークを活用しながら周知を図るなど、参加者数増加のための取り組みを行っていく。

委 員 セミナー参加者に対するアンケートは、資料としてうまくまとまっている。引き続き活用していただきたい。

委 員 他市において、男女がいきいきと働き続けられる企業を市が認定し、表彰している事例がある。企業側の女性の受け入れ態勢はまだまだ充実しているとは言い難く、特に中小企業においては取り組みが難しいというのが現実だが、それでも市から表彰されたとなれば、企業にとっては喜ばしいことだと思う。企業の意識改革の第一歩として、来年度以降取り組んでみても良いのではないか。

(2) 男女共同参画に関する市民意識調査アンケート案について

会 長 アンケート案について修正の意見があれば、委員から主旨を説明していただくとともに、他の委員からはそれに対する意見も発言していただきたい。

委 員 市民として回答する立場になった場合を想定し、修正案を考えてみた。まず、「各場面での男女の意見の反映され方についてどう思うか」という問いがあるが、家庭、職場、

地域社会などの状況について尋ねるなら、学校における状況についても尋ねるべきだと思う。次に、別の質問で「政策や方針決定の場への女性の参画状況が低い」という記述があるが、調査票を受け取った市民全員が現状を認識しているとは限らないので、具体的なデータを示したほうが良いのではないかと。また、参加している地域活動の内容を尋ねる質問があるが、自分の行っている活動に対してどの選択肢を選ぶべきなのか、今の選択肢のままでは判断が難しい。最後に、仕事や家事にあてている時間を尋ねる質問の中には、ぜひ「余暇・趣味など自分自身のための時間」を質問項目として入れていただきたい。ワーク・ライフ・バランスの観点から、非常に重要である。

委員 男女の意見の反映され方の質問については、そもそも学校における意思決定を生徒が行うという場面が少ないことから、必ずしも学校における状況を尋ねる必要はないのではないかと。

事務局 「政策や方針決定の場への女性の参画状況が低い」ということが客観的にわかるデータは、ご意見をいただいたとおり、質問に添えて掲載したいと考えている。他の質問でも、必要に応じてデータを掲載し、回答者への現状の周知に努めたい。

委員 地域活動の内容を尋ねる質問では、現状では選択肢が選びにくいので、「自治会」「子ども会」などの例を選択肢に括弧書きで追加してはどうか。

委員 「男女共同参画は男女ともに働き詰めになること」という誤解を回答者に与えないためにも、仕事や家事にあてる時間のほかに、余暇にあてる時間も尋ねるべきである。

委員 女性が結婚や出産を機に仕事をやめることについて尋ねる質問があるが、選択肢から「女性は結婚・出産後も仕事を続けるべきである」という考えが根底にあるという印象を受ける。子どもが幼いうちは自分の手で育てたいという積極的な理由で仕事をやめる女性もいることから、そのような考え方も尊重して選択肢を見直してほしい。

事務局 おっしゃるとおり、回答者に「仕事をやめることは悪いことだ」という印象を与える可能性がある。人それぞれの生き方を尊重するのが男女共同参画の主旨なので、選択肢を中心に見直しを行いたい。

委員 質問によって言葉遣いがばらばらであったり、見やすいレイアウトでなかったりと、回答者が答えづらい点が見受けられるので、すべての人にわかりやすくなるよう、全体的に表現を見直していただきたい。

事務局 この場で各委員からいただいたご意見をもとに、調査票の修正を行っていく。

(3)その他

委員 男女共同参画週間のような全国的な行事を市民に周知するために、もっと積極的に啓発を行ってもいいのではないかと。

委員 作品募集を行うにしても、例えば子どもが応募しやすいようテーマを工夫する、イラストだけでなく4コマ漫画を募集するなど、様々な手法があるのではないかと。他市や他

団体の取り組み等も参考に、効果的な啓発を行っていただきたい。

会 長 それでは、事務局は委員の皆さんのご意見などを今後の参考にさせていただきたい。

閉会

平成26年7月28日

議事録署名者

鈴木 真理子 ⑩

戸崎 史子 ⑩

